

早稲田社会学会ニュース

第62号

2023年 10月28日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 2023年度第75回早稲田社会学会大会の報告
2. 2023年度第75回早稲田社会学会総会の報告
3. 新会長挨拶
4. 2023年度早稲田社会学会第44回研究例会の報告
5. 2023年度研究助成について
6. 学会ウェブサイトのサーバー移行について
7. 入退会者のお知らせ
8. 学会費納入のお願い
9. 事務局よりお願い

1. 2023年度第75回早稲田社会学会大会の報告

第75回となる今年度の学会大会（早稲田社会学会と早稲田大学総合人文科学研究センターの主催）は、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況も踏まえ、2023年7月8日（土）、ZOOMミーティングを用いたオンライン開催となりました。

報告者および報告題目、司会者、討論者は次のとおりです。

一般研究報告（10:30～12:00）

報告者：

三津田悠（早稲田大学）「道德教育としての初期社会科と戦後日本——特設道德をめぐる論争の知識社会学」

秋葉 亮（早稲田大学）「全体人と平均人——デュルケム学派による自殺研究における「正常人」の展開」

西城戸誠（早稲田大学）「福島県外避難者における生活支援拠点事業の現状と課題——受託団体の特徴に着目して」

池田祥英（早稲田大学）「アメリカにおけるタルド社会学の受容——F. H. ギディングスの場合」

司会：熊本博之（明星大学）・高橋かおり（立教大学）

シンポジウム (13:30~17:00)

テーマ：「社会」の中の「人工知能 (AI)」を考える

——「人間以外」と向き合う視点の構築に向けて

報告者：

高艸賢 (千葉大学) 「AIが社会に浸透するとはいかなることか? ——ポスト現象学と現象学的社会学の視座」

清家久美 (立命館アジア太平洋大学) 「新実在論の視点からAIを考えてみる ——主観の非前提性と緩やかな反自然主義に着目して」

栗原亘 (高千穂大学) 「AIと「共に生きること」を考える ——B. ラトゥールの連関の社会学を出発点にして」

コメンテーター：ドミニク・チェン (早稲田大学) ・竹中均 (早稲田大学)

司会者：大貫拳学 (佛教大学) ・栗原亘 (高千穂大学)

シンポジウム報告

本年度の大会シンポジウムのテーマは、研究例会との連動企画「『社会』の中の『人工知能 (AI)』を考える ——『人間以外』と向き合う視点の構築に向けて」であった。シンポジウムでは、現在急速に開発・導入が進んでいる人工知能 (AI) 技術に対し、社会学の理論がどのようにアプローチしうるのかについて、3名の論者がそれぞれの専門とする理論的立場から論じた。

まず高艸賢氏の報告では、A. シュッツに端を発する現象学的社会学の立場からいかなる貢献が可能かについての検討がなされた。技術に対する現象学的社会学からのアプローチは、これまで技術を積極的に主題化してきたポスト現象学的な諸議論が軽視してきた「社会」に関する視点を有しており、まさに社会の中のAIを記述するうえで必要不可欠なものであることが示された。また、高艸氏は、現在の現象学的社会学の技術研究の展開は、アクターネットワーク理論 (ANT) からの問いかけを受け取ったことによって成立しているものであると論じたうえで、ANTと現象学との連携の可能性にも言及した。

続く清家久美氏の報告では、M. ガブリエルの提起する「新実在論」の立場から、AI技術に関する批判的な検討がなされた。論点は多岐にわたったが、特に、現在支配的となりつつある自然主義および科学主義の視点からなされる議論や主張——たとえばAIが人間の知能を超える「シンギュラリティ」に到達可能とする議論や、人間の知能を超えた「トランスヒューマニズム」が成立するといった主張——に関して、あくまでもAIは「精神の自由」を獲得することはないという観点からの問題提起がなされた。そこにおいては、AIをめぐる活発な言説のなかで生じているAIに関する「過大評価」に対し、一定の歯止めをかける理論的な視座が提示されたといえる。

栗原亘氏の報告では、特にB. ラトゥール版のANTとしての「連関の社会学」の立場からどのようにAI技術が論じられうるのかが検討された。栗原氏は、「連関の社会学」の特徴が、異種混成的な相互依存関係に対して目を向ける点にあることを明示したうえで、それがAIという技術に対してどのようにアプローチしうるのか、今後「AIと共に生きること」を考えるうえでどのようなビジョンを提示しうるのかといった点について論じた。またさらに、ケアの思想をめぐる諸議論の観点も取り入れることで、人間と非人間の双方を考慮に入れた新たな「分業」論を構築することの必要性を提起した。

ディスカッションにおいては、以上の報告に対し、まず、ドミニク・チェン氏と竹中均氏からコメント・質問が投げかけられた。またその後、参加者からの質疑も活発になされることで、議論が深められた。その結果、具体的な状況への視点を確保しつつ、しかしAIの可能性に関して断定的に論じたりその善悪について性急に判断したりする流れからは一定の距離を取るようなバランス感覚をもって、現状

を多角的に把握する理論的な視座を地道に構築していくことの必要性についてコンセンサスが得られたといえる。

(高千穂大学 栗原 亘)

2. 2023年度第75回早稲田社会学会総会の報告

2023年度早稲田社会学会総会は、7月8日(土)学会大会終了後、17:00から17:45まで、ZOOMミーティングを用いてオンラインで開催されました。

1. 会長挨拶

名誉会員佐藤慶幸先生のご逝去が報告された。

2. 議長選出

笹野悦子会員（早稲田大学）が選出された。

3. 議事

3-1 報告事項

1) 活動報告（2022年7月～2023年7月）（各担当理事）

2) 2023年度研究助成の申請について（庶務担当理事）

申請が1件あり、第1回理事会にて承認されたことが報告された。（詳細は5）

3) その他（庶務担当理事）

庶務担当理事より、事務局幹事2名の交代が報告され、6月1日付で就任した新事務局幹事2名が紹介された（詳細は末尾 新理事会・事務局）。

3-2 審議事項

1) 2022年度決算の件（会計担当理事）

※別添の総会資料をご参照ください。

2) 会計監査報告の件（監事）

3) 2023年度予算の件（会計担当理事）

※別添の総会資料をご参照ください。

4) 次期役員を選出の件（理事及び監事候補者推薦委員会委員長）（詳細末尾 新理事会・事務局）

5) 次期会長の承認の件（次期理事会）（詳細末尾 新理事会・事務局）

6) その他

会員1名より、事務局幹事の業務の負担が大きいこと、及びその削減を求める発言があり、意見交換がなされた。その上で、庶務担当理事より、本総会後に予定されている新旧合同理事会にて学会運営をめぐる諸問題を共有し、次期理事会に検討課題として引き継ぐこと、事務局体制の見直しは既に幹事2人体制への移行をはじめ課題としていることが示された。以上を受けて、議長より、事務局体制に関わる問題について、次の理事会でも引き続き検討していく、という方針が総括され、これを確認した。

新理事会・事務局（2023年度早稲田社会学会総会にて承認・報告）

理事会（担当別五十音順）

会長	竹中 均（早稲田大学）
庶務	草柳千早（早稲田大学）
同	田辺俊介（早稲田大学）
編集	池田祥英（早稲田大学）
同	牧野智和（大妻女子大学）
研究活動	栗原 亘（高千穂大学）
同	嶋崎尚子（早稲田大学）
会計	榎本 環（駒沢女子大学）
同	津田好美（早稲田大学）
渉外	大黒屋貴稔（聖カタリナ大学）
同	岡本智周（早稲田大学）

監事（五十音順）

土屋淳二（早稲田大学）
西野理子（東洋大学）

事務局幹事（五十音順）

秋葉 亮（早稲田大学博士後期課程）
武内 保（早稲田大学博士後期課程）

3. 新会長挨拶

竹中 均

7月の総会で会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

学会が抱えている問題はどうしても多面的で複雑にならざるを得ないために、対処の見通しが一筋縄ではいかない場合が多いように思います。そのため、ある方策を採用すると、予想外の問題があらたに顕在化することもあり得ます。ですが、数少ない例外は、会費をめぐる問題ではないかと思えます。順調に納入していただける会員の皆様が多ければ多いほど、事態は着実に改善されるのではないのでしょうか。

会員の皆様にはいろいろとご不便をおかけすることになりますが、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

4. 2023年度早稲田社会学会第44回研究例会の報告

第44回研究例会が、以下の通り開催されました。

テーマ：「社会」の中の「人工知能（AI）」を考える

——「人間以外」と向き合う視点の構築に向けて

日時：2023年5月20日（土）14:00～17:00

会場：オンライン（Zoom）開催

司会者：栗原 亘（高千穂大学）

報告者および題目：

片桐雅隆（千葉大学）

ポストヒューマン研究に社会学理論は何が出来るか——解釈的社会学からのアプローチの試み

松村一志（成城大学）

AIはいかに知の秩序を変えるか——データベースの技術と「客観性」

研究例会報告

本年度の研究例会のテーマは、大会シンポジウムとの連動企画「『社会』の中の『人工知能（AI）』を考える——『人間以外』と向き合う視点の構築に向けて」であった。研究例会では、人工知能（AI）や関連する多様なデジタル技術をめぐる具体的な社会的現状や、それを対象とした、社会学を含む人文・社会科学分野における研究の動向について、2名の登壇者が報告をおこなった。

1人目の片桐雅隆氏は、まず、AIをめぐる諸議論を、人文・社会科学の分野で昨今盛んに提起されているポストヒューマン研究の文脈に位置づけ整理したうえで、社会学理論がどのような形でそうした議論の展開へと貢献しうるかについて検討した。その中で片桐氏は、これまでの社会学理論の伝統の中でも、特に解釈的社会学と呼ばれる潮流に着目し、これまでは主として人間の間の関係を念頭に彫琢されてきた諸々の枠組みが、どのようにして「人間以外」を扱うポストヒューマン的な議論へと適用可能であるかについて論じた。

2人目の松村一志氏は、いわゆる科学論の立場から、AI技術のなかでも特に生成系AIの発展・普及が、社会学を含む学術的な活動にもたらしうる影響に関して、「非意味性」や「客観性」などのキーワードを軸にして検討した。例えば松村氏は、これまでは人間が担うと暗黙のうちに想定されてきた、B. ラトゥールの言うところの「スポークスパーソン」の役割を、人間ではないAIが果たすようになる可能性などに触れ、そのことが学術、ひいてはより広範な社会に対していかなる影響をもたらしうるかについて論じた。

以上の2つの報告、そしてそのあとに行われたオーディエンスを交えてのディスカッションは、AI技術の発達と普及をめぐる現在進行形の状況について、今後検討される必要のある論点を洗い出すうえで非常に有意義なものであった。本研究例会は、「社会」へと新たな「アクター」がもたらされることで生じている、あるいは生じうる「混乱」と向き合うための議論の足場を構築するうえで、大きな一歩となったと思われる。

（高千穂大学 栗原 亘）

5. 2023年度研究助成について

申請1件があり、以下が第1回理事会にて承認され、総会にて報告された。

助成対象者：河野 昌広

研究題目：都市の自転車の道、走る道、歩く道の研究

助成額：100,000円

ご寄付のお願い

これまで当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重し、研究活動の助成を行ってまいりましたが、現在、その継続が困難な状況に直面しております。今後もこの制度を継続するため、寄付を募っております。寄付をお考え下さる皆様には、事務局までご連絡いただけますと幸いです。

6. 学会ウェブサイトのサーバー移行について

早稲田社会学会ウェブサイトは現在、早稲田大学のWebホスティングサービスを利用していますが、大学の方針により2024年3月までに現行のWebホスティングサービスの提供が終了することとなりました。それにもない、学会ウェブサイトは大学が新たに提供するWebホスティングサービスへ移行することを予定しています。

具体的には、サイトの公開URLおよびコンテンツの体裁が変更されます。サイトの移行が完了しましたら、学会メーリングリスト等により会員の皆さまへご報告いたします。

7. 入退会者のお知らせ

理事会において、以下1名の入会が承認されました。（以下、敬称略）

2023年5月20日理事会

秋葉 亮（早稲田大学文学研究科）

理事会において、以下2名の退会が承認されました。（以下、敬称略）

2023年5月20日理事会

田中 耕一（関西学院大学）

2023年7月8日理事会

柳 洋子（文化女子大学）

8. 学会費納入のお願い（未納の皆様へ）

今年度の学会費を未納の方におかれましては、重ねて学会費をお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

9. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

学会事務局では、実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。特に2020年度以後、コロナ禍で、学会費の納入状況が大変低下しました。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上